

## 平成 30 年 7 月豪雨による伊方原子力発電所周辺環境放射線等調査への影響について

愛媛県は、伊方原子力発電所周辺環境放射線等調査として、伊方発電所周辺の環境放射線等の状況を確認するため、空間放射線の測定や魚、野菜、水などの環境試料の放射線の測定を行っている。本年 7 月の豪雨による本調査への影響について、以下に示す。

### (1) モニタリングステーション・モニタリングポスト

県が設置しているモニタリングステーション・モニタリングポストについては、東日本大震災の教訓を踏まえ、耐震性及び津波等のハザードを考慮して設置しており、また電源・通信の多重化も図っている。

今回の豪雨災害では、一部地区の停電により非常用発電機が起動した県モニタリングポストが 2 局（野村局（西予市）及び吉田局（宇和島市））あったが、空間放射線量率の連続測定に影響はなく、四国電力(株)設置分を含めた全 41 局で常時監視体制は維持されていた。

なお、空間放射線量率の測定値についても、異常値は観測されていない。

### (2) 蛍光ガラス線量計

四半期ごとの積算線量を測定するために設置している蛍光ガラス線量計（県設置 45 か所、四電設置 25 か所）のうち、大洲市内に設置している 3 か所で浸水被害が確認された。

浸水した 3 か所については、線量計収納箱を取り換えのうえ、新しい蛍光ガラス線量計素子を追加設置し、並行測定を行っている。

### (3) 通信機能付き電子線量計（参考局※）

通信機能付き電子線量計については、直径 5 km 程度を目安に人口分布等の社会環境や地形等の自然環境にも考慮して設置しており、全 58 局の電源・通信の多重化も図っている。

※ 緊急時に避難等の防護措置に利用するが、平常時から連続測定を行っている。

今回の豪雨災害では、電子線量計システムの機器全部あるいは一部が浸水により故障し使用不能となった測定局や、通信事業者の基地局等の被災による通信障害のため、測定データの伝送が一時的に途絶えた測定局があった。

○電子線量計システム全体の水没による全機器故障 2 局（大洲市：宇津局、森山局）

早期復旧が見込めない状態のため、可搬型モニタリングポストにより代替測定中

○バッテリーボックス浸水によるバッテリー等の故障 1 局（西予市：明間局）

バッテリーを介さず商用電源に接続し測定中

○通信障害によるデータ伝送の途絶 6 局

電子線量計システム自体は健全であり、通信回線の復旧に伴いデータ伝送回復済み



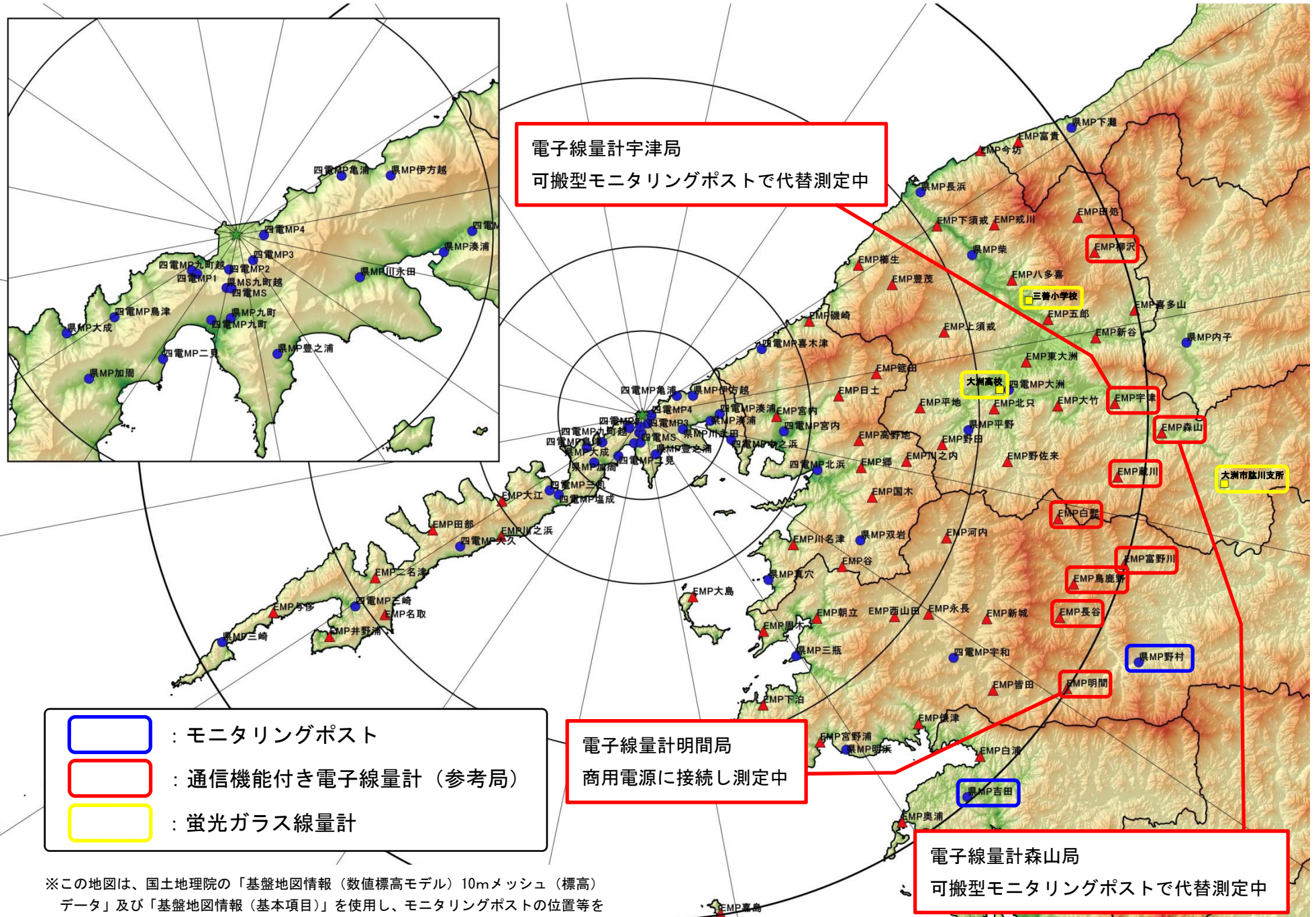
宇津局被害状況（7/9）



被災した蛍光ガラス線量計収納箱



◎豪雨災害の影響があったモニタリング地点



※この地図は、国土地理院の「基盤地図情報（数値標高モデル）10mメッシュ（標高）データ」及び「基盤地図情報（基本項目）」を使用し、モニタリングポストの位置等を追記したものである。